

トップメッセージ



100周年の先を見据え、 安心・安定・安全を届け続けます

厳しい事業環境の中で磨き続ける、 「3つのA」という変わらぬ使命

この一年は、当社にとって厳しさと同時に、将来の成長に向けて徹底したコスト低減、業務の効率化等を推し進め、地道な努力を積み重ねる一年でした。

かねてからの物価高や原材料価格の高騰に加え、昨今の中東情勢の緊迫化に伴う石油関連製品の価格高騰・供給不安が生じ、また、毎年の薬価改定など、医薬品業界を取り巻く環境は依然として厳しく、当社の業績も楽観視できる状況ではありませんでしたが、そうした環境下においても、当社の強み

である品質・製造管理のクオリティを維持し、安定供給に努めてまいりました。

2028年に設立100周年を迎えますが、当社が目指す姿は変わりません。それは、「安心品質」「安定供給」「安全情報」からなる『3つのA』を、日々の行動の指針として着実に実践していくことです。

北埼玉工場2号棟の本格稼働や、新製品の上市など、未来に向けた取り組みが具体的な形となって動き出している今、100周年は通過点であり、その先の医療インフラを支え続ける企業としての責任を、改めて強く認識しています。

重点領域で築く次世代の安定供給

当社は近年、強みを発揮できる領域に経営資源を集中する戦略を進めてきました。その象徴が、オンコロジー領域をはじめとする重点分野への注力です。

実際に、オンコロジー営業部では主要製品において、これまでの実績と医療機関からの信頼をもとに、2024年の新製品においても着実にシェアを高めるなど、成果が現れています。

また、北埼玉工場2号棟の本格稼働は、当社の安定供給体制を次の段階へと引き上げる重要な取り組みです。本年5月末に製造販売承認事項の一部変更申請承認を取得し、6月に製品が初出荷されました。今後は自社製品に加え、製造受託の拡大や海外への供給も視野に入れています。これは、業界全体で課題となっている医薬品供給不安の解消や海外進出に対し、当社として果たせる役割を広げていくものです。

近年、ジェネリック医薬品業界では「供給の役割を担える企業かどうか」が厳しく問われる時代になっています。その中で、設備投資だけでなく、計画遵守力や部門間連携といった“見えにくい力”を磨いてきたことが、当社の次世代の安定供給体制の土台になっていると感じています。

品質を守る文化とガバナンスの進化

医薬品企業にとって、品質は経営そのものです。当社では、経営理念に掲げる「高品質の製品を適正に供給する」という使命を実践するため、現場と経営が双方向で対話するクオリティカルチャーの醸成に力を入れてきました。

例えば、PTP包装工程の改善や無菌性保証への対応など、日々の業務改善の多くは、現場が主体となり、部門を越えた連携によって実現しています。

こうした取り組みは、結果としてコスト削減や生産性向上にもつながり、「品質を守ることが経営を強くする」という好循環を生み出しています。また、改正薬機法への対応や、信頼性保証本部を中心とした

ガバナンス強化も着実に進めています。

近年、法令遵守や品質確保に対する社会からの要求は一層高まっていますが、当社では、社員一人ひとりの理解と日々の行動が、結果としてガバナンスの実効性を高めていると受け止めています。

そのため、教育や情報共有を通じて理解の浸透を図り、現場の行動につなげていく取り組みを継続しています。

人を大切にする文化を競争力に変える

当社の最大の資産は「人」です。

「くるみん」認定や「健康経営優良法人2026」の取得に象徴されるように、働きやすさと働きがいの両立を目指した環境整備を進めてきました。その結果、現場の改善提案や主体的取り組みが、以前にも増して活発になっていると感じています。

また、TAGチームを中心としたサステナビリティ活動も、着実に広がりを見せています。フードドライブやこども食堂支援、環境美化活動、CSRセミナーなど、社員一人ひとりが社会とのつながりを実感できる活動が継続されています。これらは直接的に利益を生むものではありませんが、企業としての信頼や共感を積み重ねる重要な基盤です。

近年、人的資本やサステナビリティは、企業評価の中核になりつつあります。当社としては流行として取り組むのではなく、「人を大切にする文化」そのものを競争力に変えていくという姿勢で、今後もこれらの活動を進化させていきたいと考えています。

高田 浩樹